

地域の力で守り育てる海岸防災林

上北地域県民局地域農林水産部林業振興課 主幹 近藤毅

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による津波により、本県の太平洋側沿岸部は、北は三沢市から南は階上町まで、農林水産業のみならず、商工業、人家まで甚大な津波被害を受けた。

本県の林業被害総額は、約25億円にのぼり、その主なものは、林地崩壊として、人工砂丘、排水路の決壊、林帯流出及びクロマツの赤枯れ並びに海岸施設の防潮護岸工の決壊などであった。

中でも、当県民局管内の三沢市、おいらせ町の海岸防災林は、海水の自然排水に時間を要した窪地での赤枯れ被害が約124haにおよんだ。



津波が乗り越え被災した緩傾斜堤



津波の滞水により赤枯れしたクロマツ

防潮護岸工などのハード施設の復旧に目処が立ち、クロマツの植栽が本格化した平成27年度から、公共事業として植栽するだけでなく、

- (1) 「**防災林の役割や必要性を再認識**」
- (2) 「**震災の記憶を風化させない**」
- (3) 「**地域が主体となった海岸防災林の保全活動**」をスローガンに、

「地域の力で守り育てる海岸防災林整備活動支援事業」を国の復興基金を活用した県単独事業として立ち上げ、被災した地域の人々と共に植樹活動等を開始した。

2. 取組内容

平成27年度から5年間、地元町内会の方々と意見交換を重ねながら、連携して様々な活動を実施し、事業終了後も普及の取組を継続している。

(1) 取組内容

① 地域活動体制の整備

○ 「活動支援連絡会」を組織

- ・ 町内会、市町村、県民局で構成
- ・ 事業計画、中間報告、事業実績報告を承認
- ・ その他、保安林管理やゴミの不法投棄問題など幅広く議論



活動支援連絡会の会議の様子

○ 「出前講座」の開催

- ・ 学校、地域住民等を対象に、講義や植樹体験を実施
- ・ 保全活動を担う地域のリーダーを養成



防犯JUMPチームへの現地出前講座



樹木医会による小学校での座学



地元町内会による植樹活動



小学生による植樹体験

② 植樹活動の実施

- 「復興植樹祭」(三沢市、おいらせ町:各1回/年)
- 植樹活動の支援
 - ・ 仮設トイレの借り上げ、スコップの貸し出し、植樹指導
- ☆ 復興植樹支援ツアーの実施
 - ・ 青い森鉄道とコラボし、旅行企画に植樹メニューを追加



復興植樹祭



植樹ツアー企画

○ 企業の森林づくり活動(企業のCSR活動)

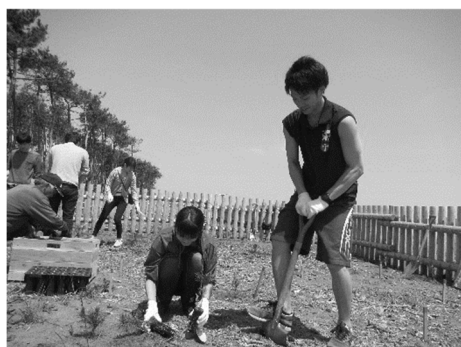
- ・ 震災前から県内外の企業が内陸の林内で植樹活動を行ってきたが、震災復興へも参加したいという申し出が有り、復興植樹に参画



東芝映像ソリューション(株)



国土防災技術(株)青森支店(下刈)



青森銀行従業員組合



ジャムフレンドグループ

3. 成果及び考察

(2) 成果

- ☆ 海岸防災林の役割を小中高校生、地元町内会員、旅行者、企業の方等へ広く普及することが出来たので、今後も地元の要望に応え、出前講座を継続していく。
- ☆ 地域住民が海岸防災林の大切さを認識し、町内会を中心に自主的・継続的に伝承活動を継続していく機運を醸成出来た。

(3) 課題

- ☆ 活動支援連絡会議で浮かび上がった新たな課題
- 復興工事中進入路の整備により、海岸部への入込者が増加し、焚き火が海岸防災林へ延焼する事案が発生していることに加え、ゴミの不法投棄も増加している。
- 成長した道路添いのクロマツが、枯損や積雪により道路や電線へ枝が落下したり、倒木が増加している。



林内に不法投棄されたゴミ

4. 今後取り組むべき内容

- 事業終了後も「活動支援連絡会」組織を維持することによって、地元とのつながりを維持し、海岸防災林や林業についての普及活動を継続していく。
- 海岸防災林内の焚き火禁止、ゴミの不法投棄禁止の普及活動を強化する。
- 枯損、倒木の恐れのあるクロマツの調査等の事前対策を強化する。



ゴミの不法投棄防止啓発
(地元町内会が作成)



電線・道路に架かる枝

地域ので守り育てる海岸防災林整備活動支援事業

地域住民による植樹活動





JUMPチーム植樹支援活動



小学校出前講座



主な活動内容

- 東日本大震災の津波で被害を受けた海岸防災林の復興植樹
- 植樹指導や移植ペラなどの貸出しによる各団体への植樹支援活動
- 小中学校への出前講座

主催
 地域ので守り育てる海岸防災林整備活動支援連絡会



～海岸防災林を守り育てるために私達ができること～